

問1. 下記の文章の (1) ~ (14) に当てはまる語句をそれぞれの文章の直下の選択肢群からそれぞれ一つ選び、解答欄に記号で記入しなさい。

本講義においては、7名の知事に講義をいただいた。

鳥取県平井知事は、鳥取県は、今後東アジアのゲートウェイを目指した取り組みを行っており、

(1) 時代を切り開きたいと語った。さらに、3人に1人が活動している計算となる全国第1位の活動率である (2) 活動など協働を重視していると語った。

ア．環東アジア イ．環日本海 ウ．環太平洋 エ．環東シナ海 オ．NPO カ．市民  
キ．ボランティア

(1)イ (2)キ

福井県西川知事は、(3) の提唱者である。福井県が住みやすい県であるが、住みやすさと住みたいと思うこととは別であると考え、住みたいと思ってもらえるようにすることが重要であるとし、

(4) などの生活支援に取り組んでいると語った。

ク．ふるさと納税 ケ．三位一体の改革 コ．消費税率の引き上げ サ．3人目赤ちゃん検診無料  
シ．「迷惑ありがた」運動 ス．4人目の出産家庭に軽自動車を3年間無償貸与  
セ．生活保護支給額の倍増 ソ．中小企業者に対するガソリン使用量に応じた補助の支給

(3)ク (4)サまたはシ

神奈川県松沢知事は、マニフェストを重視した県政に取り組んでおり、神奈川県から日本を変えるべく (5) や (6) など先進的で多様な条例に取り組んでいると語った。

タ．美の条例 チ．知事多選禁止条例 ツ．知事定年制条例 テ．公共施設禁煙条例  
ト．がん検診推進条例 ナ．脱メタバ条例

(5)チまたはテ (6)チまたはテ

岩手県達増知事は、岩手県では「岩手希望創造プラン」を策定し、これは (7) づくりとその育成である「新地域主義戦略」と、岩手の (8) を目指した「岩手ソフトパワー戦略」からなっていると語った。

ニ．コミュニティ ヌ．都道府県連合 ネ．家族関係 ノ．人間関係  
ハ．ITソフト産業の拠点形成 ヒ．ブランド化

(7)ニ (8)ヒ

熊本県蒲島知事は、自らの経験を振りかえり、最初 (9) に従事し、その後政治学の研究者となり、2008年熊本県知事に就任されるまでの経験から伝えたいことを語られた。また、学生へのメッセージとして「期待値を超えて」という意味の言葉である (10) を学生に贈って講義を締めくくられた。

フ．農業 ヘ．小学校教員 ホ．高校教員 マ．More Aggressive ミ．Be Ambitious  
ム．Above the Expectation

(9)フ (10)ム

岡山県石井知事は、就任当時に岡山県は公債や地方公共事業を拡大しており借金比率は全国最下位で (11) となるところだったと語った。さらに、国の機能が外交・防衛・司法など根本的なものに限られ地方分権の究極の姿であるとした (12) についてその重要性と制度設計イメージを語った。

メ．第三セクター モ．財政再建団体 ヤ．特別地方公共団体 ユ．三位一体の改革  
ヨ．道州制 ラ．行財政改革

(11)モ (12)ヨ

和歌山県仁坂知事は、県知事の責任として、まわりを見る目が世の中に欠けてきている社会において自分の目と頭で判断し (13) が大事であると語った。また「行政は (14) だ」とし、金科玉条として法律にのっとなるのではなく総合的に考えることが重要であると語った。

リ．ステレオタイプ ル．時流に掉さすこと レ．滅私 ロ．論理 ワ．掛け声

(13)ル (14)ロ

問2．下記の文章の (15) ~ (24) に当てはまる語句をそれぞれの文章の直下の選択肢群からそれぞれ一つ選び、解答欄に記号で記入しなさい。(同じ番号のところには同じ語句が入ります。)

本講義は、現職の知事以外にも多彩な講師による講義が行われた。

前大分県知事の平松氏は、一般にはGNPが社会の豊かさの指標となっているが、豊かさを図るために (15) を提唱していると語った。また、(15) を向上するために内発的發展と外発的發展の2つ戦略が必要であり、内発的發展の取り組みとして (16) の原則と成果について語った。

a．Gross National Satisfaction b．Gross Local Product c．一村一品運動  
d．農工併存 e．立命館アジア太平洋大学

(15)a (16)c

京都市門川市長は、明治維新は京都にとって危機であったが、京都の人々が明治政府に先駆けて明治2年にスタートした小学校建設においてそれぞれの家の状況に応じて学校建設資金を出し合った (17) が京都を支えてきたと語った。また、足りないところについて批判するのではなく、足しあう、高めあう関係につなげることである「(18)」の考え方が重要であると語った。

f．無私 of 精神 g．協調 of 精神 h．竈金(かまどきん) of 精神 i．共感  
j．共汗(きょうかん) k．協働

(17)h (18)j

姫路市石見市長は、共生のまちづくりを通して、生きがいと魅力のあるまちを作っていきたいとし、その指標とし (19) を向上させることが大事であると語った。また、市役所の「トリプルSの改革」として、(20)、市民に信頼され協働する市役所、質の高いサービスを提供する市役所、を掲げた。

l．Activities of Daily Living m．Quality Of Life n．Gross Local Satisfaction  
o．すばやく行動する市役所 p．スリムな市役所

(19)m (20)p

NPO 法人地方自立政策研究所理事長の穂坂氏は、現在は高度経済成長期から成熟期へと社会が変わっている転換期であるが、行政の仕組みだけが変わっておらず、その理由は、とにあると語った。

q . 住民の行政に対する無関心さ r . 行政職員の硬直性 s . 国の地方行政に対する強い関与  
t . 地方の国への甘え u . 行政職員の能力の低さ

(21) q または t または s (22) q または t または s

NPO 法人パブリックリソースセンター理事・事務局長の岸本氏は、NPO の役割を第 1 に行政も企業も行っていない先駆的なサービスを行うこと、第 2 に NPO は  の場であるということ、第 3 に社会的な変化を NPO は促進すること、と語った。さらに、NPO は社会を変える意思を受けて活動するものであり、そこには第三の資源提供者があり、これが「」だと考えている。

v . 非営利活動 w . 自己表現・自己実現 x . パブリックリソース y . ミッション  
z . 非営利

(23) w (24) x

問 3 . あなたは、本講義でどのようなことを得ましたか。本講義で得たことを解答欄に 100 字以上 200 字以下で簡潔に記述しなさい。

まず、規定の字数が書けているものは 60% の得点を与え、その上で、知事やローカル・ガバナンスにかかわる多彩な講師陣の一連の講義を理解し、講師陣の共通性と相違性を理解したうえで、ローカル・ガバナンス等に関して卓越した記述をしている者に加点をした。

#### 配点

問 1	1 選択肢につき 3 点	合計 42 点
問 2	1 選択肢につき 3 点	合計 30 点
問 3		合計 8 点
出席点		合計 20 点
		計 100 点